

研究だより

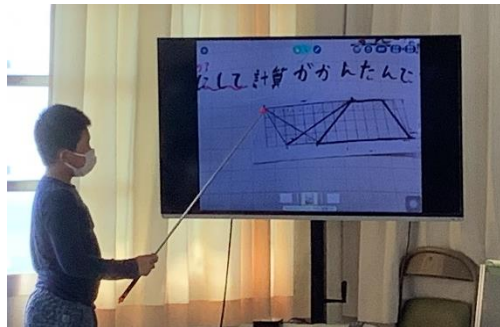
1 第8回 研究授業（小中合同研修）より学んだこと

（令和4年10月13日（木）6校時 第5学年「面積」 授業者 酒井 早希 教諭）

【協議会より】

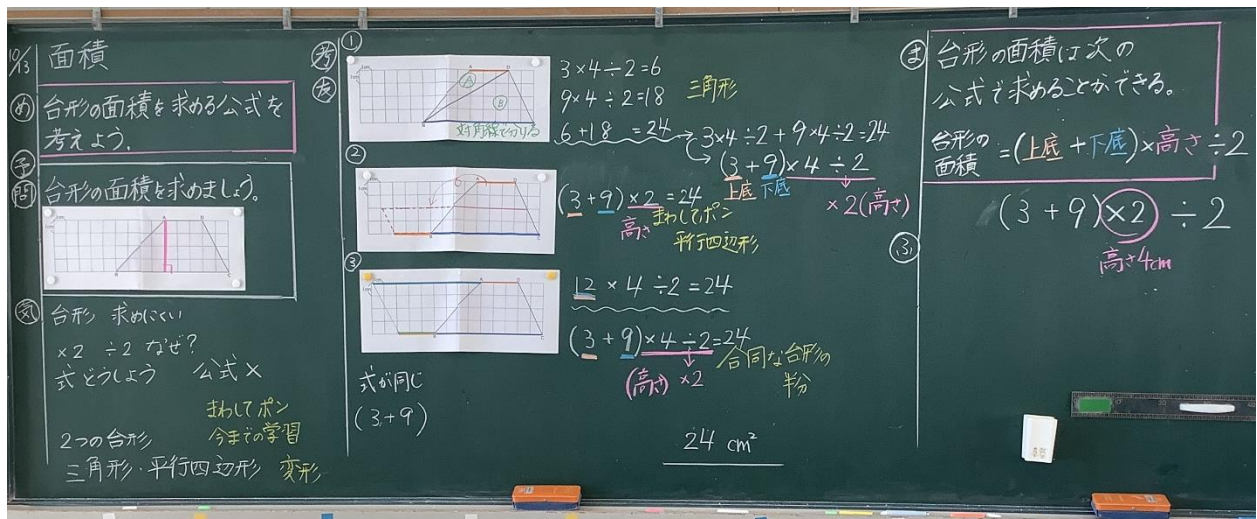
①子どもの問いを生かす手立てについて

- ・間違えても安心できる温かい学級の雰囲気がある。
聞く姿勢ができているので自分の考えを表現することが苦手な子どもも授業に入れる。
- ・予習から気付きを出し合うことからめあてを立てていた。「自分たちでやってみたい」という意欲が高まっていた。
- ・子どもの言葉をつなげていき、児童主体の授業になっていた。また、教師の切り返しで児童の思考が深まっていた。
- ・台形の公式を導く場面では、「 $\times 4 \div 2$ 」を「 $\times 2$ 」にすることが適切かどうかを考える発問があると良かった。台形の高さが4 cmであることをおさえ、「 $\times 2$ 」でいいのかと切り返し吟味していけばよかった。



②タブレットの活用・児童同士の意見交流について

- ・子どもたちはタブレットを使い慣れている。
- ・予習のノートの提示や板書が分かりやすい。
- ・起立しての意見交流がよかった。
- ・比較したり共通点を見つけだす活動で思考が深まっている。



【小林良子指導主事先生より 指導助言】

①授業からの学び

- ・予習のよさとは...

導入がスムーズになる。児童が予習で学んだことが問になる。

分かっていることと分からないことの整理ができる。

「公式は習ってはいないが、既習事項を使えばできそうだ。」というような見通しがもてる。

②思考を促す発問について

- ・予習のノートタブレットにとって提出させていた。その際、子どもの考えが消えてしまわないように板書で教師がうまく補っている。
- ・算数用語にこだわる発問をしている。「(「台形を2つに分けたこの線をなんというの?」など)
- ・色分けをするなど、式の意味が見えるように視覚支援をしている。そのことにより、式と図をつなげている。
- ・「3つの考えを公式につなげるところで迷う。」ということ想定し、ヒントカードを用意している。全員ではなく、必要な子だけ使うところがよい。
- ・3つの考えに共通していることを考えさせ、「既習の図形に変形すれば面積が求められる」ということおさえて、「挑戦問題もできそうだな」と最終ゴールを意識させることもできた。
- ・児童のつぶやきをつなぐことが児童の思考がつながるということである。

③発問について

- ・何のために発問をしているのか?教科の資質・能力を身に付けさせるためである。
- ・発問は児童の思考に働きかけるもの、指示は行動に働きかけるものである。このちがいを意識して使い分けることが大切である。
- ・一問一答の発問ではなく、思考を促す発問をすることが大切である。少なく問いかけ、多く答えさせることができればよい。



④今後に向けて

- ・自分の考えがどのように深まったのかノートやワークシートに書いて整理する時間が必要。自分とは異なる考えについて「なんとなく分かった。」が「確か」になる。

【山田校長先生より 指導助言】

- ・いつも子どもが楽しく学習している。先生との関係がよく、友達の見解を聞くのが楽しいという雰囲気である。
- ・今日の5年生の授業では、2学期学校全体で取り組んでいる「自分の思いを伝える」がかなりできている。国語科での学習が生きている。子どもは自分の思いが伝えられたらうれしい。
- ・公式をつくる最後の場面では、間違っていることに対して「おかしい」と子どもが言わないのが残念だった。声に出ると、そこからまた深まっていく。

2 今後の予定

(令和4年10月26日(水) 6校時 第4学年「面積」 授業者 三戸部由幸)